

「美」についてのとらえ方も分かれず。桜の様相でみれば、寒さに耐える枝そして蕾、満開、花吹雪、葉桜、終の朽ちた老木。無常が美しいようです。無常の中の不易。「いい絵」といわれる絵に普遍的な共通項目はあるのだろうか？作家、作品、鑑賞者、三者を貫き響き合う何かを見つければいいようです。

究極「いい絵」を決めるのは鑑賞者です。いい絵を描くため作家は鑑賞者の生理的本能をくすぐるテクニクを身につけてはなりません。現在の私が求めているのは「単純な物理的ルールに裏打ちされた少し複雑な変化」です。

**緑陰をつくるハルニレは女性** 長野 信

ハルニレ＝エルムといえば緑の芝生に大きな影を落としていた北大のキャンパス風景を思い出します。北海道に多く自生し、本州では冷涼な高地に限られ、一般にはあまり馴染みがありません。それでも東京の新宿御苑には庭園樹として百年をこえる巨樹が威容を誇っています。

ニレの仲間には20種ほどあり、北半球に広く分布する落葉高木樹で、北方系民族が大事にしてきた有用な樹です。

スカンジナビアの神話には天地を創造した主神オーディンが木を人間に変えたとき、そのうちの一本を人類最初の女性にし、名前をEmliaとしたが、これがエルムの語源だといま

す。また、北海道のアイヌの人達にも同じようなことが云い伝えられています。

「創成されたばかりの大地に、最初に降ろされたのはハルニレとイチイとヨモギの女神であったが、この中でハルニレの姫は絶世の美女になって、天上の神々はいとも雲の上からうっとり眺めていたが、あるとき、雷神が身を乗り出して見とれていたら、他の神が後から押したので、思わずあしをすべらし、姫の上へ落ちてしまった。このため姫は身ごもり、男の子を産んだ。

ところが、ハルニレの女神には風当たりが強

く、とても子育てが出来ないので、自分の樹皮を剥いで着物を作って着せ、剣を抜くと燃えさかる刀を子供に授けて、天上の神のもとで育ててもらった。

男の子は成人したのち再び地上にもどされ、人間生活の基礎を築いたといえます。

アイヌの人達がハルニレをチキサニ（我ら・こす・木）と呼び、この木で火を起こし、ハルニレやオヒオウの樹皮から防寒具を作っていたことと符合する伝承です。

ハルニレは成長するためにいろいろ条件を求め、種子は乾燥すると発芽が急激に悪くなるので繁殖には取り時が必要で、乾燥し過ぎない水分の十分な土壌で、水溜りの生じない壤土または砂壤土だといま

す。札幌地域にハルニレの天然林が多かったのはこうした条件のそろった石狩川やその支流の豊平川の氾濫原が広いからですが、今日では都市化がすすみ、ニレの森はすべて植林して出来た森となつてしまいました。

1600年初頭、北アメリカ東部、ボストンにやつきたイギリス人移民たちが荒野を拓いたとき、土地選びにニレの森を選ぶよう、親切なインディアンから教えられたといま

す。この立地が肥沃で水利もよく耕作に適した、洪水の危険も少ない土地であることを後に知り、感謝したそうです。こうした情報があつてこそ今日の美しいボストンがあるので

す。新宿御苑のハルニレ二本のうち一本は二十

年ほど前に台風で倒れたが、そのひこばえが残り、いまでは10mを超える高木になっています。なぜかその幹は真つすぐに伸びずに斜めに伸びて、沢山の小枝は春には霞んでるように優しく、夏には大きな木陰を落として

います。いつの頃からか、来苑者の間でこのハルニレを「みかえり美人」と呼んでいます。

**挨拶と笑顔**

京都支部 福井妙子

“こんにちは” 私は手紙を書くのが好きです。電話やメールで済ませる今の世の中でも

割合よく書きます。書き出しはいつも

“こんにちは”からはじまります。

あいさつには、おはようございます、こんにちは、おやすみ、御機嫌よう…いろいろありますね。皆さんあいさつなさっていますか？家族で、友人で、近所で…

私が二十年前くらい前にお寺の住職様に口伝として教えて頂いたことを記します。

あいさつは、相手の目を見てやさしく、声は♪ソの音で

一、あいさつをよくする人は勇氣と自信が力こぶのようにつく。

二、あいさつが自分をあいてにみとめさせる行動である。

三、あいさつには魂を入れる。

四、あいさつは相手よりも先にする(得をもらう)

五、あいさつはどんなことがあつてもつづけてする。

このように教えていただきました。私の心に深く残っております。そして笑顔、人と人との出合、第一印象というこれは3秒で決まる。この3秒で相手の人に嫌われたら、向こう3年間自分のおとくいさんにならないが、相手の人に好かれたら、ほつておいても自分のおとくいさんになつてもらえる。

笑顔とはこれほど大切なものであるとも教えられました。

とはいっても、毎日生きている中でいつもいつも笑顔でいることはむつかしいものです。でも悲しい時嫌な時苦しい時ふと自分をかえりみてこの言葉を思い出しては前向きに生きている今日この頃です。

**うれしいご報告**

京都支部 川井セツ子

急性リウマチに因る関節破壊のため、歩くことも、字を書くこともままならず、家事全般を夫に託し、痛みとの葛藤を重ね、堪えと三度の手術とリハビリの生活をしいられ、五年余りの沈黙生活を送るなか、机に向かえば小さな作品ぐらいいなら出来るで

あろうと思つてはいたものの、心身ともに落ち込みのため閃きも、ときめきも、制作に至る小窓が開くことはありませんでした。

昨夏の、支部小品展の折、久々に友と語らい、集いを重ねるうちにやつと電源が入り、十九年以来五年ぶりの三十六回本展出品を機に、やつと迎えた八回目六年ぶりの個展(九月四日・九日)の日、この日の訪れがあるのだろうか、痛む手と闘いながらの制作を経て折り続けて迎えた日の喜びは言葉に変えることはできません。

二本杖から車椅子、そして今は…杖なしで歩く私に驚く、病室をともにした友「今だから言えるよくなるのだろうか？」と心配してくれた友。案内状のコメントを見て会場に来て下さり、励ましの言葉を下さった初対面の方等々。

心配をかけた方々と元気にならせていただいた私と分身たちとの出合いが叶い濃密な六日間を過ごさせて頂きました。やつと戻つてくれた灯が、穏やかに燃え続けてくれます様にお願いしつつ、私事の嬉しいご報告とさせていただきます。

**委員コラムについて**

委員は自身の作品制作のほかに会の運営にも頭を悩ましております。委員会では一般応募者増加策や実行マンパワー強化など難題に取り組んでおります。

今号から各委員が持ち回り日頃考えていることを述べる欄を設けました。

テーマは自由ですが委員として見識ある内容を期待しています。

第一回目に土屋委員にお願いしました。土屋委員はとりわけ会の運営に熱心で、会活性化のプロジェクト構想など提案しております。

編集担当 小高